

品川駅の歴史

18-D N・K

1. はじめに

いつも何気なく通学や外出時に使う最寄りの品川駅。これを機に品川駅がいつ作られ、どのような歴史を歩んできたか調べることにした。

2. 品川駅の始まり

品川駅が作られた場所は元々海であったため、埋め立てて造られた。品川駅付近の線路は、海中に堤防を築き、その堤防の上にレールを敷いた。

そして、品川駅は1872年10月14日開業の新橋~横浜間を結ぶ日本で最初の鉄道の駅の1つとして1872年1月20日に完成した。日本で最初の鉄道である新橋~横浜間のうち先行して完成した品川~横浜間全線の開業を前に仮開業していたため、東京都内で最古の駅となった。その後、年月が経つにつれ貨物も来るようになり、更には、横須賀線や京浜急行線、2003年の新幹線駅の開業により、利用客が増え、駅構内や駅全体が巨大化していった。現在は山手線、京浜東北線、上野東京ライン、東海道線、常磐線、総武線、横須賀線、成田エクスプレス、新幹線、京浜急行線など各地方へと向かい、人を運ぶ様々な電車が走っており、都心と地方を結ぶ大切な駅の一つとなっている。さらには2027年開業予定のリニア中央新幹線の始発駅ともなっていて、ますます駅の重要性が高まっていく。

品川駅の開業については、品川駅創業記念碑として、品川駅高輪口の駅前ロータリーに石碑が残っている。記念碑には、『昭和二十八年四月吉日品川改築落成祝賀協議会建之』と書かれており、裏側には鉄道創業時の時刻表と運賃の表が書かれている。料金は横浜までの片道で1円以上するので現在の2万円以上の価値があるという事になり、とても高いので特別な移動手段だったことが分かる。電車は、朝と夕方の1往復の合計2往復のみで、横浜までの所要時間は、35分と書かれている。運転開始の翌日には6往復になり、8月からは8往復になった。

3. 驚きの品川駅の構造

今だったら当たり前前の自由通路。しかし、自由通路が完成する1998年以前の品川駅はとても不便であった。なぜなら、わざわざ入場券を購入して、駅構内を進まなければならなかったからだ。今のような自由通路に変わり、料金を支払わなくても駅を抜けることが出来るようになったのは、1998年のことである。現在は、駅構内に2つの改札、中央改札と北改札があり港南口と高輪口にそれぞれの出入り口に行きやすい構造になっている。この約150年間の間に時代とともに駅の構造も進歩を遂げていったことが分かる。

また、駅構内には、atreなどの商業施設、お土産売り場、お弁当が買えるお店、本屋、コンビニエンスストア、パン屋、特別店など改札の中でも買い物が楽しめ、駅の活用の仕方も変わってきている。

4. 品川駅の巨大さが分かる統計

大発展を遂げた品川駅には24個のホームがある。他の主要な駅と比べて、ホームの数とい

う視点から品川駅がどのくらいの規模なのか調べた。その結果、第 1 位 東京駅第 2 位 上野駅 第 3 位 大宮駅 第 4 位 品川駅 第 5 位 横浜駅となっている。つまり、関東の他の駅にも引けを取らないとても大切に重要な駅だという事が分かった。もう少し順位が上だと思っていたが、意外にも順位が低くて驚いた。

5.おわりに

今回の研究で、最寄り駅として利用している品川駅の歴史を調べたことで、自分が使っている駅の現在までの様子や、品川駅の重要性についてしっかり学ぶことが出来たのでとても良い経験になった。2020 年に品川駅と田町駅の間に新駅ができるので、品川駅との構造の違いにも注目しながら完成を見守りたい。